

第2回文化財保護審議会（8月25日）会議録要旨

日 時：令和3年8月25日（水）13:30～14:35

場 所：東庁舎1階多目的大ホール

出席委員：池田議長、中津、酒井、宮地、伊賀

事務局：林課長、味元副課長、森主任（生涯学習課）

大元政策監、大河原室長、西尾主査、松下主任（文化的施設整備推進室）

河原主任（まちづくり推進室）

■委員等意見要旨

別紙『文化的施設整備事業関係団体「サービス計画」等説明資料』、『四万十町文化的施設サービス計画（素案）』、『四万十町文化的施設「意見公募手続」説明資料』により説明を行った。委員等より下記のとおり意見があった。

（池田議長）

現在高速道路の工事がされており、将来的に高速が繋がると窪川に降りる理由がなくなってしまう。新文化施設では四万十川の情報等を発信し、町外からの利用もしていただけるような施設になるとよいと思う。

（池田議長）

縄文人、弥生人が四万十川流域で暮らしていたので、出土する壺等の文化財が多くあるが、町外に流出している。そういった文化財が新文化的施設に収集、展示され歴史を学ぶことができる施設にしたいと考えている。

これまで民具等も収集されてきたが、散逸してしまったという状況が見受けられるので、そういったものも保管・展示することが大事ではないかと考えている。

➡（林）新文化的施設は保存よりも展示機能に軸足を置いた施設である。文化財や民具等の保管については各地域で実施し、町の遊休施設等を活用し適切に保管することを検討したい。新文化的施設は図書館との複合施設なので、ストーリーのある展示を行い学習につなげたい。

（池田議長）

学芸員を配置し、四万十町の歴史を説明することができる職員がいればよいと思う。

新文化的施設では「町内で文化財が出土した等」の文化財に関する最新の情報も発信できればよい。

➡（林）四万十町は歴史系の学芸員がないことがウィークポイントである。学芸員のような専

門職により史料等の適切な解説、適切な保存ができるような体制を新文化的施設では行いたい。

(中津)

全国の歴史的な施設を見てきたが、それぞれの施設には観光客にアピールする仕掛け、発信する展示場所があり、驚くようなものからがっかりするものまであった。町外の方に対して我が町のこういったものを見てくれというものが展示していると、とても好感がもてた。逆に展示スペースはあるが物置のようになっているところもあった。新文化的施設では町外の方がときめくようなものがあれば有効な施設になると思う。

町外にアピールできるどころといえば「遍路文化」であると思う。四万十町は遍路文化の大きな拠点になっていると思うが、まだまだ発掘されていない部分があると思われる。四国を回るお遍路さんにとって四万十町は大きなインパクトがあるのではないか。今あるような材料を集めて、岩本寺の宿泊者等をターゲットにし四万十町の文化的一面をみていただくということができれば、町外に対する四万十町の文化の発信になると思う。

➡ (林) 新文化的施設の展示物を考えるにあたっては、文化財保護審議会のみなさんの意見も聞きながら、町外に発信できるよう検討していきたい。

(中津)

新文化的施設は岩本寺の近隣地に建設するということがとても好条件であると思う。

(大元)

サービス計画は本年 12 月には案を作成し、意見公募を経て令和 4 年 3 月には決定したいと考えている。新文化的施設ができるのはまだ先であるが、令和 4 年 4 月からサービス計画上のサービスを開始したい。

審議会の方には諮問ということにはならないと思うが、ご理解をいただいたうえで進めていきたいと考えている。また様々なアドバイスもいただきたいと考えているので、前向きにご協力いただけるというごとの解釈で構わないか。

➡ (池田議長) ぜひお願いしたい。

(池田議長)

鶴津に地震の化石がある。そういった場所を映像等で新文化的施設にて発信できればよい。

(池田議長)

みなさん本日の説明のような方向性でご理解いただいたということでよいか。

➡ (全委員) よい。